

Living the LOTUS

Buddhism in Everyday Life



VOL. 166

開祖隨感

待つ心

人を育てるのにいちばん大事なのは、「待つ心」ではないかと思います。人が自分の欠点や癖を直すのは、そう簡単なことではありません。会社で上司が部下に、いろいろ注意を与えて、「こんな失敗は、二度と繰り返すのではないぞ」と言い聞かせても、そういつぺんに直るものではありません。

よくお母さんが、子どもに向かって「分かったと言ったでしょう」「もうやらないと約束したでしょう」「何度言っても聞かせたら、あんたは分かるんですか」と言って叱りつけているのを見かけますが、頭で分かったのと、実際にそれができるとでは天と地ほどの開きがあるのです。

たとえば、右の棚の物を左の棚に移すだけのよう簡単に見えることであっても、長い間に身についたその人のやり方や癖は、なかなか抜けません。何度も失敗を繰り返しながら、次第に改まっていくものです。それを見守り、待ってあげる心の広さ、温かさを持たないと、人は育たないのですね。

あなた自身、いまは悟りきったような顔をしていても、そうなるまでに、どれだけの人に見守られ、待ってもらってきたか、思いだしてほしいのです。

『開祖隨感』9, p. 218-219

Living the Lotus 2019年7月号 (Vol.166)

【発行】立正佼成会 国際伝道部

〒166-8537 東京都杉並区和田2-7-1
普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124

Fax: 03-5341-1224

E-mail: living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 齋藤高市

編集チーフ: 鈴木健祐

校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼協祖によって創立された、法華三部経を所依の經典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。

「自由自在」に生きる

立正佼成会会長 庭野日鏡



ほんとうの「自由」と「自在」

私たちは、自分の思うままに行動できることを「自由」といい、それが「自在」な生き方だと思っています。そして、多くの人々が「自由自在に生きられたら、どれほど幸せだろう」と考えます。別の見方をすれば、私たちが日ごろ、いかに不自由や不満を感じているかということです。

ただ、ある意味でそれは当然のことです。自分の思いどおりにできることが「自由」だと思っていると、ままたらぬ現実**にぶつかる**たびに不足や不満、苛立ちや苦しみ**を覚え**、不自由な思いが募るからです。これは、「自由」を求めながら、逆に自ら不自由を招いているといえますが、不自由を感じるようなときこそ、ほんとうの意味の「自由」で「自在」な生き方を身につけるいい機会かもしれません。

仏教では、欲にとらわれたり、自分の考えにこだわったりする心がすっかりなくなること**を「遊戯」といい**、そうした何ものにもとらわれない心のありようを「自由自在」ととらえています。思い煩いも憂いもなく、気持ち**がのびのび**として安らかな境地です。

また「自在」には、観世音菩薩を**観自在菩薩**と呼ぶように、苦しむ人びとの声を聴いて、意のままに救うはたらきや力という意味があります。つまり、人さまを思いやり、人さまとともに向上をめざす生き方のなかに、ほんとうの「自由」があり「自在」があるということです。





「三界は我が有なり」の気持ちで

法華経の「譬諭品」に「我はこれ衆生の父なり。其の苦難を抜き無量無辺の仏智慧の樂を与え、其れをして遊戯せしむべし」という一節があります。不自由に思うことが多く、苦難は避けてとおりたいと願う私たちに、仏は「智慧の樂」を与えて、ほんとうに自由自在な人生を送らせてあげよう、というのです。では、その「智慧の樂」とは、いったいどのようなものでしょうか。

たとえばいま、目の前に、おにぎりが二つあるとします。あなたに与えられたものです。ところが、まわりにはあなたと同じくらいお腹を空かせた人が四人もいます。

「諸苦の所因は 貪欲これ本なり」と經典にあります。もらったあなたが自分一人で食べたいと思う気持ち（貪り）も、もらえなかった人たちがそれを恨んだり妬んだりする感情（瞋り）も苦悩の一つです。だからといって、足りないぶんのおにぎりを仏にプレゼントしてもらうのが「智慧の樂」ではないでしょう。そうではなくて、その不足がもたらす苦悩を、自他の向上につながる楽しみや喜びとして受けとめるようになるのが「智慧の樂」ということです。

自由ということでは、私たちにはつらいできごとを「前向きにとらえる自由」も与えられているといういい方もできます。苦しいときでも、それをまるごと受けとめて、目の前にある小さな幸せをかみしめたり、喜びを人と分かちあったりすることで、苦悩を楽しみに変えていく——それが、ほんとうに「自由自在」な生き方だと思います。

また「譬諭品」には、「今此の三界は 皆是れ我が有なり」（この世界・宇宙は私のものです）とあります。私たちは、おこがましくて「とてもそのように思えない」と考えますが、私たちはそれぞれに独自の尊い命を生きながら、大自然の一部としてすべてと調和し、生かされています。それは、宇宙全体が私と一体であり、我がものだという事です。先の一節は、「このことがわかれば、いつでも智慧と慈悲に満ちた行ないができますよ」と私たちを励まし、そうあってほしいと願う仏からのメッセージなのです。

そのことをふまえて、一つお尋ねします。みなさんなら、先の二つのおにぎりをどのようにされるでしょうか。

（『佼成』2019年7月号）





私の人生を変えた芳澍での二年間



芳澍女学院情報国際専門学校
中川路佳代

この体験説法は、2019年3月1日に大聖堂で行なわれた朔日参り(布薩の日)の式典で発表されたものです。

皆さま、お願い致します。

芳澍女学院情報国際専門学校では仏教精神に基づく「人間教育」の授業が行なわれています。私が芳澍に入学したいと思った理由は、この人間教育の学びを通してものの見方を変え、どんなに嫌なことがあってもプラスに受け止められる自分になりたいと思ったからです。

全寮制の生活では、同期生の一つひとつの言動が気になり、些細なことに腹をたてそうになる自分が嫌になったこともありました。しかし、人間教育を学ぶうちに「人は皆、育った環境が違えば考え方も違う。私は自分を基準にして物事を見ているから相手を責めたくなるのだ」と、自分を振り返られるようになりました。その一方で、どうしても受け入れられないこともありました。理解はしているのに受け入れられないのはなぜだろうと考えました。そして、目の前に現れた現象を反

射的に拒絶してしまうのは、相手を受け入れるための自分の器が小さいことと、「相手にこうしてほしい」と思う「我」や「欲」が心の中にあるからだということに気づきました。

芳澍では年に一度教会実習があり、今年、私は鈴鹿教会にお世話になりました。今回の実習では「人間教育の学びを活かそう」と意気込んで臨んだものの、思いもよらず、スタートから躓いてしまいました。初めて担当の支部長さんにお会いしたとき、「怖そうな人だな」という第一印象を持ってしまい、それからは、顔を見るだけで緊張してしまうようになりました。支部長さんはいつも仏さまの教えを分かりやすく伝えてくださっていましたが、あまりにもストレートに話される姿を見て、私もいつかビシッとと言われるのではないかと不安になっていました。そのため、自分の思ったことを素直に言葉にできず、どんどん自信を失っていきました。ちょうどその頃、芳澍の先生が面談のために教会にやって来られました。先生から他の同期生の実習の様子を聞いて、「私がしたかった実践をできている人がいるのに、私は何をしているのだろう」と思い、悔しさと焦りを感じました。そんな思いを抱えながらも、教会で先生と一緒に芳澍のPRをさせていただくことになりました。たくさんの会員さんの前で建学の精神を唱和させていただくうちに、失いかけていた誇らしい気持ちが湧いてきました。そして、今後の実践課題について先生にご指導をいただき、「自分と相手の仏性開顕」を修行テーマに決めました。

面談直後、それまで怖いと思っていた支部長さん



大聖堂で説法をする中川路さん

に「どのようなご縁で佼成会の教えに出会ったのですか?」と、自分から聞いてみる事ができました。支部長さんのそれまでの人生やご法との出会いについてお話を聞いているうちに、自分の心がどんどん開いていくのが分かりました。そして、支部長さんが私のことを本当に大事に思ってくださっていることが伝わってきて、温かい気持ちになりました。自分の心の持ち方次第で支部長さんの見え方が180度変わったことに胸がいっぱいになりました。翌日からは法座に臨む気持ちも変わりました。悩みを打ち明けてくださる方の心に寄り添って、この方に幸せになっていただきたいと思えるようになりました。仏性礼拝を意識して実践しているうちに、どんな人でも尊く思える私に変わっていききました。ある会員さんとのふれ合いでは、相手を讃える言葉を自然に口にすることができました。その方は「モヤモヤがパッと晴れて、すごく心が軽くなったよ。ありがとう」と、満面の笑顔でお話してくださり、私は嬉しくて涙が出そうになりました。このときの経験は私の宝物になりました。また地区法座では、「私たちは何とか現象を変えようとするけれど、それは逆効果になるだけで、まずは自分が変わらないといけないんだね」とおっしゃった方がいました。自分を変えることの難しさは、私自身がいつも痛感していることです。自分を変えるには相当な努力が必要です。けれども、それによって目の前の現象も変わるのだと信じ、まずは自分を見つめることが必要不可欠だと思いました。

さらに、今回の実習は私にとって大きな決断をするきっかけにもなりました。

幼い頃、私の両親には喧嘩が絶えませんでした。

父はお酒を飲んで母と喧嘩し、人が変わったように物に当り散らしていました。強い性格の母は、一歩も引くことなく父に立ち向かい、兄と私は、いつも泣きながら夫婦喧嘩を止めようと必死でした。ある日、母は子どもたちを守るために決断し、父の留守中に荷物をまとめ、兄と私を連れて家を出ました。その後両親は離婚しました。

離婚後、父は子どもたちに会いたいと手紙を送ってきたり、学校に会いに来たりするようになりました。私は自分勝手な父とはこれ以上関わりたくないと思うようになっていました。父はその後アルコール依存症になり、私たちの気持ちなどおかまなしに、相変わらず子どもたちに会いに学校に来ることをやめませんでした。高校二年生のとき、私はそんな父に「何しに来たの?来ないでと言ったでしょ。早く帰って」と、言葉を投げつけていました。それでも、ふとしたときに「子どもに会いたくても会えず、寂しくて暗い気持ちのまま死んでいくのかな。それでは可哀そうだし、私もこのままではきっと後悔する」と思うようになりました。しかし母への遠慮から、心は揺れながらも、そうした思いを封印したまま二十歳を迎えました。

私は実習の中で支部長さんに父のお話をさせていただきました。そして、それがきっかけとなり、勇気を振り絞ってそれまで心に留めていた気持ちを母に電話で伝えることができたのです。母は少し不安そうでしたが、今度の春休みに父に会いに行くことを許してくれました。母からは、なぜ父がお酒を飲んで物に当るようになったのか、なぜそうせざるを得なかったのか聞くことができ、初めて父の苦しさや辛さを知ることができ

した。父の気持ちを考えずに、命を与えてくれた父に感謝するどころか、二度と関わりたくないなどと思っていたことに、心がとても苦しくなりました。

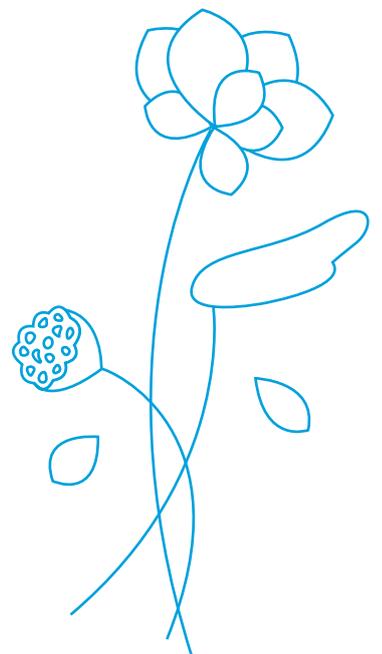
その後、私が支部長さんに父のことをお話した日、父が芳澍に「娘に会いたい」と電話をしてきていたことを知りました。父の辛さに寄り添う気持ちで、この春休みに会うことができたかと願っています。

法華經に出会えたことで、社会に出る前に、今まで知らなかったものの見方・考え方を学ぶことができました。そして、どんな出来事も自分にとって必要なことなのだ、少しずつ思えるようになりました。また、仏性礼拝の尊さを肌で感じ、どんな人にも幸せになってほしいと思えるようになりました。今後は、これまで学んできたことを人さまのために役立て、社会に貢献できる私にならせていただきたいと思います。

皆さま、ありがとうございました。



鈴鹿教会での実習後、支部の皆さんが開いてくれた送別会で(後列中央)



Living the
 **LOTUS**

法華三部經

各品のあらましと要点

妙法蓮華經

授学無学人記品第九

五百人というたくさんのお弟子たちが授記されたのに、十大弟子の中に入っている羅睺羅（お釈迦さまのひとり子）と阿難（お釈迦さまの従弟）の二人は、「どうしてわれわれには授記してくださらないのだろうか」と、寂しい気持ちになっていました。思いあまって、仏さまに授記をお願いすると、仏さまは即座に授記を授けられました。と同時に、たくさんかくの学（まだ学ぶことの残っている修行者）・無学（もはや学ぶべきことは学びつくしてしまった修行者）の弟子たちにも授記されました。

この品は、ただそれだけのことが叙述されているにすぎないように見えますが、われわれはこの中から、二つの教訓を汲み取ることができると思います。

仏性を自覚しさえすれば仏になれる

第一は、まだ学ぶべきことの残っている、いわば見習いの修行者までも授記されたということです。一見不思議なようですけれども、よく考えれば不思議でもなんでもありません。すべての人間はひとしく仏性をもっているのであり、その仏性を明らかに、そして完全に自覚しさえすれば、仏になれるからです。

身近な人の教化は難しい

第二は、十大弟子の中にさえ入っている羅睺羅や阿難が、なぜほかの人よりずっと遅れて、ようやく見習いの声聞たちしょうもんと一緒に授記されたのか……ということです。

お釈迦さまのみ心のうちを推察してみますと、羅睺羅はお釈迦さまの実子であること、阿難もご自分の従弟であり、二十数年間いつもおそばに仕えていた者であり、両方ともお釈迦さまにとって、いちばん身近な人であることに、かえって修行のためのマイナスの要素がかくれていることを考慮に入れて、それをすべての人にお示しになるために、わざと遅らされたのではないかと考えられます。

阿難の場合は、いつもおそばにいて、食事の世話もする、水浴をなさるときは背中をお流しするといった立場にいますと、仏としてのお釈迦さまの偉さや、その教えの尊さと、普通の人間としてのお釈迦さまのお姿とがまじりあって、どうしても、他のお弟子たちのような純粋な帰依ということが困難になるのが普通です。



羅睺羅の場合にしても、おとうさんがどのように尊い人であっても、外部の人が心から尊敬しているのと同じような気持で肉親の父に対することはなかなかできないものですし、また甘え心もまったく起こらないとはいきれません。

このことから、逆に考えますと、われわれが身近のもの、すなわち妻とか夫とか、子とか親とかを教化^{きょうけ}することが、いちばん難しいのだということになります。口先だけで導こうとしても、とうていできるものではありません。日常生活の実際の行ないによって感化するほかはないのです。

その行ないも、立派なのは時たまにすぎず、普段はわがままな行ないや、みっともない行ないが多いようでは、感化の実は上がらないのであって、行住坐臥にいい手本を見せなければ、家族の者や、同じ職場の人は、ついてくるものではありません。

阿難・羅睺羅は、ほかの大弟子より悟りが遅かったとも伝えられていますが、しかし、〈五百弟子〉より遅れていたとはどうしても考えられません。やはりそこには、前述のようなお釈迦さまの深いご配慮があったものと推測せざるをえません。また、そのように受け取るのが、後世の仏弟子としての正しい態度であると信じます。

本願

この品^{ほん}では、もう一つ大切なことが教えられています。それは、新発意の菩薩八千人に対し、釈尊が阿難の授記にことよせて、〈其の本願^{そ ほんがんかく}是の如しと



〈本願〉というのは、仏・菩薩が過去世において、一切衆生を救おうとして立てられた誓願をいいます。たとえば、釈迦牟尼仏は五百の大願を、阿弥陀仏は四十八願を、薬師仏は十二願を立てられたといえます。

新発意の菩薩たちは、現世に生まれ変わってからはそれを忘れてしまっていたのですが、過去世においては、一切の人びとを教化し仏道を成就せしめようという願^{がん}を立てていたのです。そして、いま法華経のお説法を聞くことによって、その本願に立ち返ったわけです。ですから、ここでいよいよ成仏の保証を授けられたわけであります。

このことは、われわれにもそのまま当てはまります。この本願に立ち返った者こそが真の菩薩であり、法師なのです。

(庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』

佼成出版社, 2016年 [初版 1991年], p. 94-98)

自他ともに救われる世界を目指して

7月は、全米布教60周年を迎える月です。国際伝道の新しい時代のスタートです。世界サンガの皆さまと、心新たに布教伝道に邁進させていただきたいと思います。

今月の Spiritual Journey で、^{なかかわじ}中川路さんはお父さんのことで悩んでいました。それでも、自分の見方を変え、すべてには必要あることと受けとめ、仏性礼拝の心になれたとき、父の辛さに寄り添い、感謝の気持ちで再会したいと思えるようになりました。後日談があり、「願い通りに会うことができ、今は心から『父が大好き』と言えます」と話されていたことを伺い、心が温かくなりました。

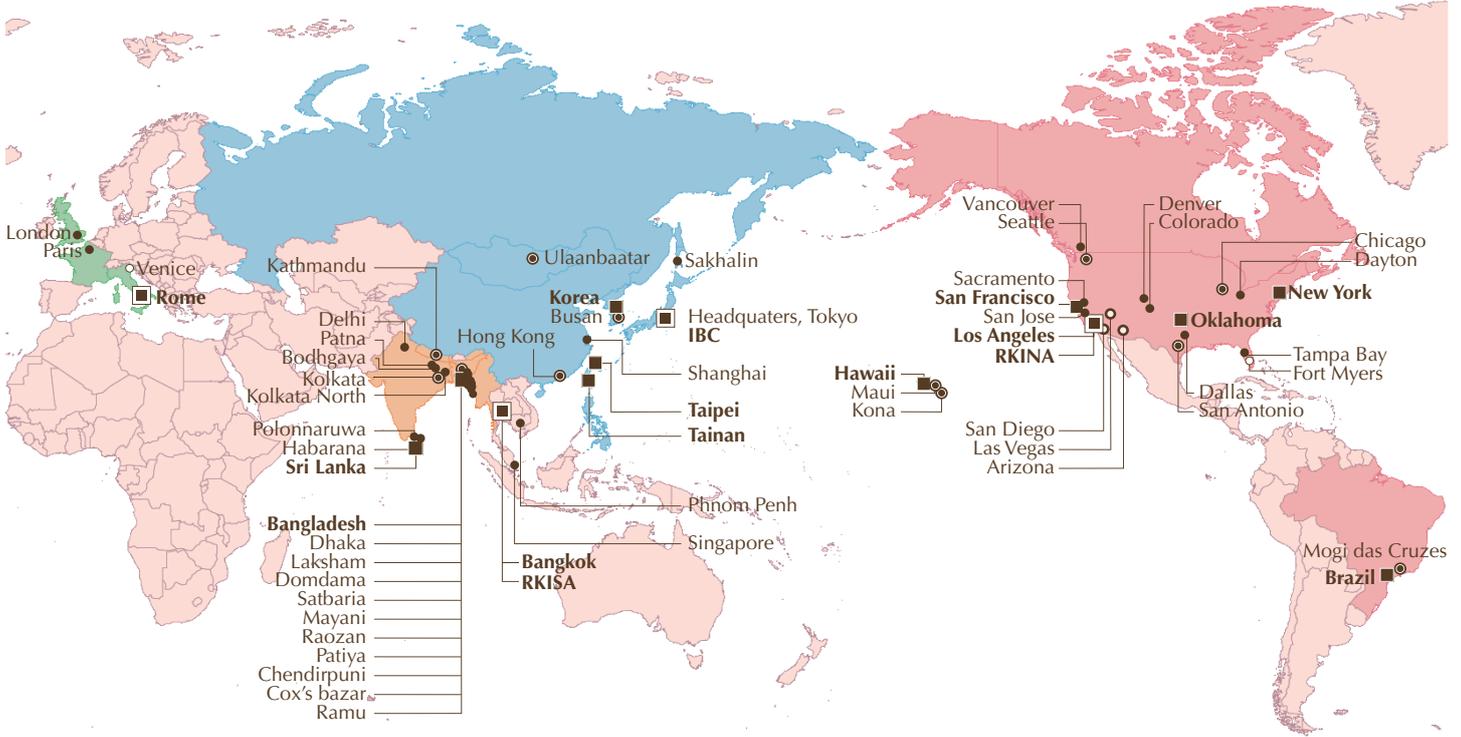
会長先生は、「『自由自在』に生きる」と題されたご法話で、「苦悩を楽しみに変えていくことが自由自在な生き方」とかみしめてくださいました。自らの尊い命に気づき、思いやりの心で自他ともに救われる世界を目指して精進させていただきたいと思います。

国際伝道部長
齋藤 高市



✉ Living the Lotus では、皆様のご意見・ご感想を募集しています。
お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。
E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai: A Global Buddhist Movement



Rissho Kosei-kai International

Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo 166-8537, Japan
 Tel: 81-3-5341-1124 Fax: 81-3-5341-1224
 E-mail: living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii

2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, U.S.A.
 Tel: 1-808-455-3212 Fax: 1-808-455-4633
 E-mail: info@rkhawaii.org Website: <http://www.rkhawaii.org>

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center

1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, U.S.A.
 Tel: 1-808-242-6175 Fax: 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center

73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona, HI 96740, U.S.A.
 Tel: 1-808-325-0015 Fax: 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

Location: 2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, U.S.A.
 Mailing Address: POBox 33636, CA 90033, U.S.A.
 Tel: 1-323-269-4741 Fax: 1-323-269-4567
 E-mail: rk-la@sbcglobal.net Website: <http://www.rkina.org/losangeles.html>

(Please contact Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles)

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas

Rissho Kosei-kai of San Francisco

Location: 1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, U.S.A.
 Mailing Address: POBox 778, Pacifica, CA 94044, U.S.A.
 Tel: 1-650-359-6951 Fax: 1-650-359-6437
 E-mail: info@rksf.org Website: <http://www.rksf.org>

(Please contact Rissho Kosei-kai of San Francisco)

Rissho Kosei-kai of Sacramento

Rissho Kosei-kai of San Jose

Rissho Kosei-kai of New York

320 East 39th Street, New York, NY 10016, U.S.A.
 Tel: 1-212-867-5677
 E-mail: rkny39@gmail.com Website: <http://rk-ny.org/>

Rissho Kosei-kai of Chicago

1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056, U.S.A.
 Tel: 1-773-842-5654

E-mail: murakami4838@aol.com Website: <http://rkchi.org/>

Rissho Kosei-kai of Fort Myers

Website: <http://www.rkftmyersbuddhism.org/>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma

Location: 2745 N.W. 40th Street, Oklahoma City, OK 73112, U.S.A.
 Mailing Address: POBox 57138, Oklahoma City, OK 73157, U.S.A.
 Tel: 1-405-943-5030 Fax: 1-405-943-5303
 E-mail: rkokdc@gmail.com
 Website: <http://www.rkok-dharmacenter.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Denver

1255 Galapago St. #809, Denver, CO 80204, U.S.A.
 Tel: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton

617 King Drive, Dayton, OH 45419, U.S.A.
 Website: <http://www.rkina-dayton.com/>

The Buddhist Center Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)

2707 East First Street, Suite #1, Los Angeles, CA 90033, U.S.A
 Tel: 1-323-262-4430 Fax: 1-323-262-4437
 E-mail: info@rkina.org Website: <http://www.rkina.org>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio

Location: 6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, U.S.A.
 Mailing Address: POBox 692042, San Antonio, TX78269, U.S.A.
 Tel: 1-210-561-7991 Fax: 1-210-696-7745
 E-mail: dharmasanantonio@gmail.com
 Website: <http://www.rkina.org/sanantonio.html>

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center

28621 Pacific Highway South, Federal Way, WA 98003 U.S.A.
 Tel: 1-253-945-0024 Fax: 1-253-945-0261
 e-mail: rkseattlewashington@gmail.com
 Website: <http://buddhistlearningcenter.org/>

(Please contact RKINA)

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Rissho Kosei-kai do Brasil

Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP,
 CEP 04116-060, Brasil
 Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377
 E-mail: risho@terra.com.br Website: <http://www.rkk.org.br>
 Instagram: <https://www.instagram.com/rkkbrasil/>
 Facebook: <https://www.facebook.com/rishokosseikaidobrasil>

Rissho Kosei-kai de Mogi das Cruzes

Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP,
CEP 08730-000 Brasil
Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377
E-mail: rissho@terra.com.br

Korean Rissho Kosei-kai

〒04420大韓民國SEOUL特別市龍山區漢南大路8路6-3
6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420,
Republic of Korea
Tel: 82-2-796-5571 Fax: 82-2-796-1696
E-mail: krkk1125@hotmail.com

Korean Rissho Kosei-kai of Busan

〒48460大韓民國釜山廣域市南區水營路174, 3F
3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
Tel: 82-51-643-5571 Fax: 82-51-643-5572

Rissho Kosei-kai of Taipei

台灣台北市中正區衡陽路10號富群資訊大廈4樓
4F, No. 10 Hengyang Road, Jhongjheng District,
Taipei City, 100, Taiwan
Tel: 886-2-2381-1632 / 886-2-2381-1633 Fax: 886-2-2331-3433
Website: <http://kosei-kai.blogspot.com/>

Rissho Kosei-kai of Tainan

台灣台灣台南市崇明23街45號
No. 45, Chongming 23rd Street, East District,
Tainan City, 701, Taiwan
Tel: 886-6-289-1478 Fax: 886-6-289-1488
E-mail: koseikaitainan@gmail.com

Rissho Kosei-kai South Asia Division

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang,
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8216 Fax: 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai of Kathmandu

Ward No. 3, Jhamsilhel, Sancepa-1, Lalitpur, Kathmandu, Nepal

Rissho Kosei-kai of Kolkata

E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North

AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059,
West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya

Ambedkar Nagar, West Police Line Road, Rumpur,
Gaya-823001, Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Patna

Please contact Rissho Kosei-kai of Kolkata

Rissho Kosei-kai of Delhi

77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar,
New Delhi 110060, India

Rissho Kosei-kai of Singapore

Please contact Rissho Kosei-kai International

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh

W.C.73, Toul Sampaov Village, Sangkat Toul Sangke,
Khan Reouseykeo, Phnom Penh, Cambodia

Rissho Kosei-kai International of South Asia (RKISA)

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang,
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 Fax: 66-2-716-8218

Thai Rissho Friendship Foundation

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang,
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 Fax: 66-2-716-8218
E-mail: info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei Dhamma Foundation

No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka

Tel: 94-11-2982406 Fax: 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa

Please contact Rissho Kosei Dhamma Foundation

Rissho Kosei-kai Bangladesh

85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
Tel & Fax: 880-31-626575

Rissho Kosei-kai Chittagong North**Mayani Hoza**

Mayani Barua Para, Mirshari, Chittagong, Bangladesh

Domdama Hoza

Domdama Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Chittagong South**Patiya Hoza**

China Clinic, Patiya, Sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

Satbaria Hoza

Village: Satbaria Barua Pra, Chandanish, Chittagong, Bangladesh

Chendirpuni Hoza

Village: Chendirpuni, P.O.: Adhunagor, P.S.: Lohagara,
Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Dhaka

408/8 DOSH, Road No. 7 (West), Baridhara, Dhaka, Bangladesh
Tel & Fax: 880-2-8413855

Rissho Kosei-kai Laksham

Village: Dupchar, Laksham, Comilla, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Cox's Bazar

Ume Burmese Market, Tekpara, Sader, Cox's Bazar, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Cox's Bazar, Ramu Shibu

Please contact Rissho Kosei-kai of Bangladesh

Rissho Kosei-kai Cox's Bazar, Raozan Shibu

Dakkhin Para, Ramzan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Branches under the Headquarters**Buddiyskiy khram "Lotos"**

4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk, 693005, Russian Federation

Rissho Kosei-kai of Hong Kong

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road, North Point,
Hong Kong, People's Republic of China

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai

Please contact Rissho Kosei-kai International

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar

Location: 15F Express Tower, Peace Avenue, Khoroo-1, Chingeltei
District, Ulaanbaatar 15160, Mongolia
Mailing Address: POBox 1364, Ulaanbaatar-15160, Mongolia
Tel: 976-70006960 E-mail: rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Erdenet

2f Ikh Mandal building, Khurenbulag bag, Bayan-Undur sum, Orkhon
province, Mongolia

Branches under the Headquarters**Rissho Kosei-kai di Roma**

Via Torino, 29-00184 Roma, Italia

Tel & Fax: 39-06-48913949 E-mail: roma@rk-euro.org

(Please contact Rissho Kosei-kai di Roma)

Rissho Kosei-kai of the UK**Rissho Kosei-kai of Venezia****Rissho Kosei-kai of Paris****International Buddhist Congregation (IBC)**

Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo 166-8537, Japan
Tel: 81-3-5341-1230 Fax: 81-3-5341-1224